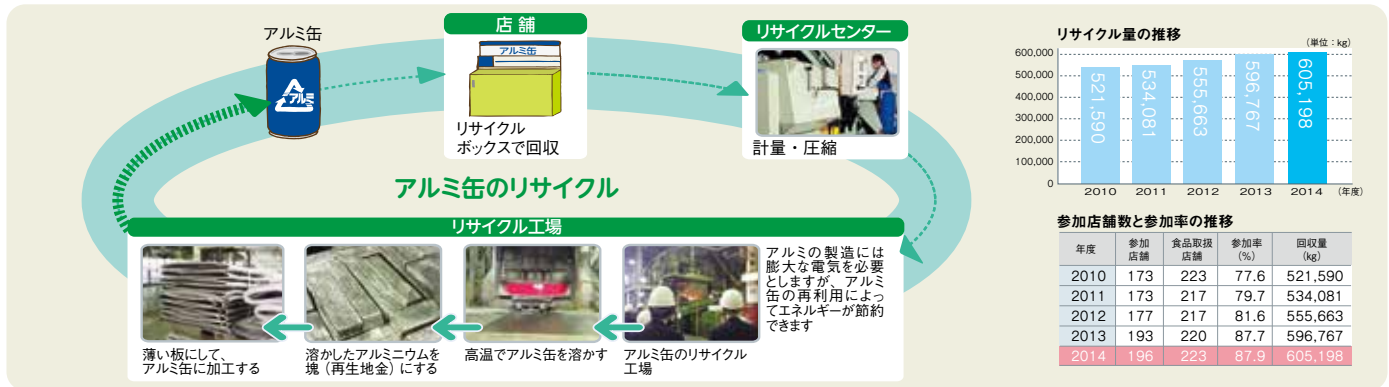




店頭回収の現状

リサイクルボックスでの回収実績

リサイクルボックスの回収実績は総回収量で2013年度対比1.7%と減少しました。店頭回収が資源回収の場としてお客様に認知されていますが、最近は食品トレイやペットボトルは技術の向上で薄肉化、軽量化が進んでいるため重量実績では減少していると考えます。牛乳パックに関しては今一度貴重な資源ということで啓発活動を続け、国内での有効なリサイクルのルートを構築し、資源としての価値を高める取り組みを行い啓発に取り組んでいきます。

リサイクルボックスでの店頭回収量

	アルミ缶	牛乳パック	発泡トレイ	ペットボトル	店舗総合計
回収店舗数	196店舗	223店舗	223店舗	205店舗	—
回収店舗	87.9%	100.0%	100.0%	91.9%	—
全社合計(44期)	605,198kg	542,743kg	280,492kg	2,126,669kg	3,555,103kg
全社合計(43期)	596,767kg	581,646kg	291,509kg	2,146,522kg	3,616,444kg
前年比	101.4%	93.3%	96.2%	99.1%	98.3%

③ サステナブル（持続可能な）原料を使った容器包装への取り組み

バイオマスプラスチック製容器包装

容器包装にはプラスチック製のものが多く、その原料のほとんどは石油です。石油など化石資源は地球に残された量に限りがあり、近い将来には枯渇してしまう恐れのある貴重な資源です。使い捨てられる容器包装に、そのような貴重な資源を使ってよいのでしょうか。また化石資源である石油は産出する時や廃棄処分する時にもCO₂を排出し、地球温暖化の原因になるといわれています。



バイオマスマーク

動植物を原料としたプラスチック
 使用後は水と二酸化炭素に分解され、
 自然に戻ります。

バイオマスプラスチック（ポリ乳酸）製容器包装

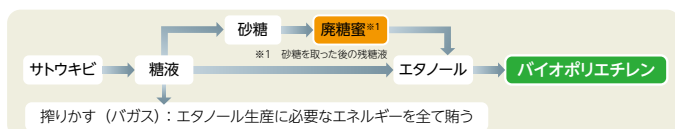
ユニーではサステナブル（持続可能）な資源であり、CO₂を増やさないことから、2006年より卵ケース（きらら紅）と青果売場で透明ケースやカットフルーツカップにバイオマスプラスチック（ポリ乳酸）を使用しています。使用済みの容器は回収しリサイクルしています。



バイオマスプラスチック（バイオポリエチレン）製容器包装

植物性のバイオポリエチレン

ポリ乳酸製の容器に続き2012年から、サトウキビの廃材を利用したバイオポリエチレンを、容器包装（液体洗剤や柔軟剤の容器・レジ袋）に使っています。従来の石油由来のポリエチレンと同じ性質を有しますが、植物性なので大気中のCO₂を吸収し、また繰り返し栽培できるので、サステナブル（持続可能な）原料です。



レジ袋にバイオマスプラスチックを使用

2012年6月から、ユニーのレジ袋無料配布を中止している店舗で販売する有料レジ袋を、バイオポリエチレン25%含有製品に代えました。サトウキビの廃材から作られたバイオポリエチレンは、石油由来100%のレジ袋に比べ、サトウキビの生産～ポリエチレン原料製造工程～レジ袋製造～輸送～焼却処分までのCO₂を17%削減します。ユニーとしてはCO₂を年間262,231kg削減します。

（試算：補助工業）

